

1. タイトル “BawB’s Raven Feathers”

『ワタリガラス・ボブの黒い羽根』（仮題）

サブタイトル “Reflections on the simple Things in life”

『日々のささいな出来事をふり返る』（仮題）

2. 出版社・刊行年

ISBN 978-0-9918821-5-1(V.1:softcover)

インヴァーメ・プレス社 2014 年

3. 著者紹介

ロバート（ボブ）・チョマニー

西に山々を望む、アルバータ州カルガリーに生まれる。ボブはこれらの山々にひきつけられ、自分の精神性を探究しながら、情熱的に多くの物事を追いつけている。今もボブはカルガリーに住み、大自然を友とし、笑いながらシンプルに生き、知恵の言葉を分かち合いながら幸せに暮らしている。

4. 内容と構成

本書には、自然のなかで自己の精神性を探究してきた著者（ボブ）の珠玉の言葉が散りばめられている。ボブはシンプルな生活をしながら、ささいな物事から喜びを見出し、それを言葉にする。彼の言葉は美しく、愛に満ち、ポジティブだ。そのメッセージはシンプルだが、エネルギーとパワーに満ちている。分かち合うことは彼の喜びでもある。彼の言葉に触れていくにつれて、私たちは彼の世界へ引き込まれていき、彼の言葉にうなずいている自分に気づくだろう

本書は、「瞬間に生きる」、「一人であること」、「シンプルであること」、「落ち着き」、「美」、「時間」という六つのテーマを軸にして構成され、詩的な文章で綴られている。

それぞれの言葉はボブのハートから生まれたもので、人生や日々の生活において、ささいなことを楽しむこと、自分自身を信じることの大切さを改めて思い出させてくれる。そして、その言葉には私たちの日々の人生を輝かせたいという願いが込められている。私たちは彼の言葉に励まされ、自分のなかにポジティブなエネルギーが沸き上がるのを感じるだろう。

5. 目次

- 1) 瞬間に生きる
- 2) 一人であること
- 3) シンプルであること
- 4) 落ち着き
- 5) 美
- 6) 時間
- 7) 謝辞
- 8) 著者紹介

6. 各章のあらすじ

- 1) 「瞬間に生きる」

この章は、主に「瞬間に生きること」をテーマとして語っている。ボブの言葉をいくつか、紹介する。

私たちの一日は瞬間、瞬間の連続で成り立っている。

初めて産声を上げたとき、世界は私が生きていることを知った。

初めて言葉を口にしたとき、世界は私がコミュニケーションできるということを知った。

初めて歩き出したとき、世界は私が独り立ちへの一歩を踏み出したことを知った。

私たちの人生を形作っているのは一瞬一瞬の出来事だ。素晴らしい体験や転機となった出来事、最高だった経験などが私たちの人生を満たしている。大人になるにつれて、驚きの瞬間はどんどん減り、天国と幸福の間に時間が介入してくるのだ。

瞬間、瞬間を生きて、人生の美しさを大切にしなければならない。

- 2) 「一人であること」

この章は、主に「一人であること」をテーマとして語っている。

「一人である」という言葉を聞くと、第一に思い浮かぶのは「孤独」だ。だが、「一人であること」は「孤独」ではない。

「一人であること」は、自分自身と「一つ」になること、自分自身と「一緒」になることな

のだ。それは、すべてのポジティブなエネルギーに焦点を合わせ、ネガティブなエネルギーから切り離されることだ。

あなたは一人で宇宙と共にあり、あなたの魂である光と結びつく。

だが、今の時代、一人であることは非常に難しい。一人であることの気高さを知るためには、社会を後にし、自然のなかに入っていかなければならない。

内面に深くたどり着くとき、そこにあるのは美だ。そして、そこに強さ、栄光、誇りを見つける。

他の誰も踏み出さなかったところをあなたが歩くとき、何が起こる？

他の誰も泣かなかったときにあなたが泣くとき、何が起こる？

あなたは誰も見たことのない場所に行く。

誰もいったことのない高みに到達するのだ。

3) 「シンプルであること」

この章は、主に「シンプルであること」をテーマとして語っている。

人生はシンプルでなければならない。

人生は毎日、選択の連続だ。その選択が異なった結果を生み出す。その結果によって、あなたは進む方向を変えたり、今の道を引きかえしたりするかもしれない。

シンプルな人生を選べば、生きることはシンプルになる。

私たちはしばしば、ジレンマに直面する。物事の最初の原因を見失い、単純な問題さえも解決できなくなってしまうことがある。それでも、一歩下がって問題を引き起こした原因に焦点を合わせるなら、問題はたいてい解決するのだ。

自信をもって、ささいなことを楽しむことができるなら、それは素晴らしい。

人生は贈りものであり、私はそれを楽しむ。

川岸に座って、草地に横たわり、小川のせせらぎを眺め、流れゆく雲を見つめたまえ。

あなたが雨の終わりに見つける宝は、太陽の暖かさだ。

暗闇のなかに光を見つけるのだ。

あなたの幸せに覆いを被せてはいけない。

人生のなかでリアルなものに目を向ける時間をつくりなさい。

幸せを感じる時間を大切にしなさい。

精神をシンプルにし、感じることを大切にしなさい。

4) 「落ち着き」

この章は、主に「落ち着き」をテーマとして語っている。

心に平和があれば、人生は穏やかなものになる。

落ち着いていれば、暴風や雨が来てもうろたえることはない。私たちは自然を師として、「落ち着き」を学ぶ。自然のなかには多くの美や平和が溢れている。

あなたの意志、考え、世界は、あなたの精神的、身体的環境によってつくられている。

最もやさしい道、平和でバランスの取れた道を選びなさい。

あなたができることだけをするのだ。

あなたは誰かの駒ではない。

穏やかでエネルギーに溢れた魂からは、落ち着きが伝わってくる。このエネルギーは暖かい抱擁や挨拶、あるいは本物の笑顔によって感じられるだろう。

5) 「美」

この章は、主に「美」をテーマとして語っている。

野外のデッキの風呂から、自然から与えられるあらゆる瞬間を楽しんだ。

私たちは日の出を見る能力を失ったのか？

私たちには静かに座ってピンクの夕日を見る時間がなくなったのか？

あなたが美しいと思うもの、どんな小さなものでもつながることが大切だ。

美はバランスの支えだ。それを経験するために遠くまで行く必要はない。アイ・パッドと電話を置き、テレビとラジオのスイッチを切り、外に出て、目を閉じて、大きく呼吸する。

目を開けて、星を数えなさい。雲を見なさい。素敵風風の歌に耳を澄ましなさい。

美しさは、ただ視覚的なものではない。野生的で、自由に満ち溢れているのだ。

6) 「時間」

この章は、「時間」をテーマとして語っている。

あなたには時間があるか？ 時間は買うことができるのか？ 時間は管理されるものなのか？ 時間はあなたの最大の資産にもなるが最悪の敵にもなる。

あなたが時間を大切にすれば、リラックスした空間を作り出すことができるが、時間をただ浪費するならば、人生は脱線した電車と同じだ。

健康問題の第一の原因はストレスによるものだ。ストレスの最大の原因は時間である。

私がこれを書いている間に、赤ちゃんは生まれ、彼らの時間は始まった。また、その間に人々は死に、彼らの時間は尽きた。

一瞬一瞬を大事にせよ。最高のものを絞り取り、心からの愛と熱意をもって生きるのだ。

私は黒い羽根の精霊とともに空高く昇っていく。そして、これからも知恵の羽をあなたと分かち合うだろう

風のなかで微笑みを送るとき、温かい言葉で人々を抱きしめるとき、私はとてつもない喜びに満たされるのだ。

分析・評価・感想

自然と共に生き、自然から学んだボブの言葉は直接、心に響いてくる。

「これは本当にインスピレーションに満ちた本だ。彼は愛、人生、自然を美しい、詩的な文章で著している。」という読者の言葉にあるように、本書の評判は高い。読者は彼の言葉に触れることによって、エネルギーに満たされ、ポジティブな気持ちが内側から沸き上がってくるのを感じるだろう。

文明社会に生きる現代人の多くは自然から離れた生活をし、さまざまな問題や病気に苦しんでいるが、自然を友として生きるボブの言葉は、私たちに一筋の光を投げかけ、生きる方向性を示してくれる。彼はある意味、自然の代弁者であり、メッセンジャーだ。

本書はつねに手元におきたい一冊となるだろう。読み返すたびに新しい発見があり、つねに私たちをリフレッシュしてくれる。

<本書の市場性>

2011年の東日本大震災以降、私たち日本人の意識が大きく変わりつつあるという話をよく聞く。津波によって多くの人々が犠牲になったが、亡くなっていった人々の死を目の当たりにして、人生観ががらりと変わってしまった人が多いというのだ。実際、その後、生や死をテーマにした本や宗教的な本が急速に売れ出した。それまで自分が死ぬことなど考えなかった人たちは、もしかしたら自分も不慮の事故で死ぬかもしれないと思ったり、死について考えるようになったり、生きることの意味を問い直したり、自分が心の底から何をやりたいのかななどを深く考えるようになったという。そのような心境になったとき、人は宗教や哲学などに答えを求めていく。本書は宗教書ではないが、真理を求める人々の心に響く言葉や体験に満ちていて、そのような人々にとっては、うってつけの本である。効果的に宣伝ができれば、かなりの読者数を獲得できるのではないだろうか。カラスと羽をモチーフにした本書の表紙も印象的である。欧米では、この本を贈りものとしてプレゼントにする人も多いという。本書は五巻のシリーズの第一巻であり、これを読めば、次も読んでみたいという思いにかられるはずだ。

<類書について>

自然を目の前にしたときの自分の心の状態を描写するインドの覚者の本『クリシュナムルティの日記』、自然回帰を唱える老子の思想を子育てに応用した『タオの子育て』、あるいは自然と調和して生きることを提唱するネイティブ・アメリカンの本などが、類書としてあげられるだろう。本書はしいて言うならば、ネイティブ・アメリカンの人によって書かれた

詩に近いと言えるかもしれない。だが、ネイティブの伝統的な枠組みのなかではなく、一個人として自然の中に身を置いて、精神性を探究してきた本は、日本ではまだ訳されていないし、著者の本も日本ではまだ一冊も紹介されていない。本書が出版されれば話題になる可能性は十分にあるだろう。

訳者プロフィール

田中淳一 1962年、青森県生まれ。Babel University Professional School of Translation 卒業。学生時代から世界数十か国を旅する。訳書『どんな時代が来るのか』（共訳 風雲舎）、『病を癒す希望の力』（共訳 草思社）、『エブリディ禅』（サンガ）、『タオの子育て』（サンガ）がある。ワールド・ミュージック・グループ「UZU」のメンバーとしても活動中。